



原耕造さんからのメッセージ

NPO法人・生物多様性農業支援センターの理事長である原耕造さんが今月の四日に急逝された。前日までお元気だったそうだ。当年、六八歳でちよつと早すぎた▼昭和四八年に全農に入会。私の知る限りでは、東西の壁が崩壊した頃にデュツセルドルフに駐在。日本に戻って農住事業に取り組み、大消費地販売推進部では安心システムをスタート。その後、生きもの調査を確立したうえで、自らNPO法人を立上げ、生物多様性に富み、環境に優しい農業の推進に人生をかけてきた▼明るい人柄で自由奔放な発想と行動力。よく酒も飲んだ。原“構造”を自認して、大きなスケールで農業は勿論、政治・経済・社会問題等を論じる一方で、自宅のある日野市での農業問題や地域活動のリーダーとして、現場で奔走した。時代の先を見据えての構想力と実践には、ファンも多かった▼その原さんの遺稿になったのがコラム「農業と国土く大嘗祭の意味」(「道21世紀新聞」八月号)だ。その年の米の収穫を祝い感謝する神事が新嘗祭であるが、天皇が新たに即位した年に行われる新嘗祭が「大嘗祭」となる。来年は三〇年ぶりに「大嘗祭」が行われるが、「アメリカが離脱したTPPも日本の主導で実効性ある協定として動き始めようという時期だ。長年にわたった減反政策も廃止された今、新天皇即位と大嘗祭の意味をかみしめ、新たな農業政策を再考すべき機会としてほしい」とのメッセージを発している▼謹んで傾聴するとともに、心よりご冥福をお祈りする。(農的社会デザイン研究所代表 葛谷栄一)